

# 浜通り地区活性化における新旧魅力の発信等コンテンツの発掘

静岡大学 地域創造学環 焼津・浜通りフィールドワーク

(教員)太田隆之

(3年生)小名陽日・田畑晴花・長瀬裕哉・三村花

(2年生)大石凜里花・大澤美潤・宮城羽那

## 1 要約

焼津発祥の地である浜通り地区の活性化の可能性を検討すべく、「あかり展」に参加するとともに、焼津市内外の若者と交流・意見交換や、「海業」に取り組む沼津市・戸田漁港・地区の調査を行い、浜通り地区の水産加工事業者の皆さんを核とした活性化のあり方や可能性を検討した。空き家の利用可能性の有無などの課題があるが、住民向けの交流の場や食事処があれば、既にあるゲストハウス「帆や」と関連づけて地区内外の人たちが浜通りに来る可能性があるのではないかと考える。

## 2 研究の目的

焼津市では全体として人口減少が進んでいるものの、近年人口動態で社会増が認められる。市ではかねてから地域資源を活用した交流の推進等が目標として位置づけられてきており、ポスト・コロナの状態に移行する中で、こうした取り組みを模索し、具体的に実現していくことが課題となっている。焼津発祥の地である浜通り地区は、市として社会増を経験する中で人口減少や空き家の増加という課題を抱えているといわれる一方で、「あかり展」を行うとたくさんの人々が来られるなど、潜在的な可能性がある。

本事業では、浜通り地区の食資源や空き家の活用の可能性に注目しながら、地域調査や住民や事業者らと交流、そして議論しながらそれらの現状と活用の可能性を模索する。また、焼津市内で活動する若者やまちづくりに関心をもつ同世代の若者と交流しながら、浜通り地区が有する可能性を活かし、この地区が有する魅力を発信するためのヒントを得、活性化のためのアイデアを提案することを試みる。

## 3 研究内容

事例として注目する浜通り地区は、地域創造学環(学環)が現場での学習を核とした科目として立てている「フィールドワーク」において学環が対象地の1つとして設定した地域である。2016年度から18年度にかけて、「浜通りフォーラム」ならびに焼津市役所の皆さんとともに「浜通り活性化計画」ならびに浜通り地区の旧家である「服部家」を地域資源として活用する「服部家保存活用計画」の作成に関わる機会をいただいた。こうした活動に取り組む中で2021年度にゼミ学生等地域貢献推進事業として実施した「浜通り服部家の運営におけるコンテンツ企画の調査研究」で、「服部家」をリノベーションしてできた「帆や」の利活用のあり方を検討する機会を得た。本事業ではこうした活動で得た知見や情報を元に、浜通り地区で水産加工業を営まれている事業者の皆さんの取り組みや、空き家が増えているとされる状況を把握しながら、浜通り地区が潜在的に有する可能性を調査、検討し、そうした可能性を「帆や」と関連させながら浜通り地区の活性化のあり方の提案を試みる。そして、こうした取り組みを進める中で、市内外で行われている地域活性化の取り組みの活動にも注目し、ヒントを得ることも試みた。

## 4 研究の成果・課題

### (1) 当初の計画

上記のこれまでの活動を踏まえ、本事業では以下の活動を行うことを計画した。

- ・本格的に再開する「あかり展」の準備から参加し、浜通り地区の活性化の方向性を検討する。
- ・浜通り地区の水産加工業者や自治会への調査・ワークショップを実施する。
- ・焼津市内外の若者と交流し、意見・情報交換を行う。
- ・浜通り地区の活性化のためのヒントを得ることを目的とした他地域の事例調査を行う。

### (2) 実際の内容

事業の評価につき、Aを予定通り、Bを内容の一部修正、Cは中止という評価を行うこととなっている。本事業では実施できた事業とできなかった事業があったため、B評価とする。「あかり展」の準備段階からの参加と焼津市内外の若者との交流・意見交換、そして水産庁の事業である「海業振興モデル地区」に認定された沼津市の戸田漁港・地域の調査ができた一方で、浜通り地区で活動している水産加工業者や自治会への調査、意見交換が十分にできなかった。検討していた空き家調査もできなかったが、焼津市観光協会・しずおか焼津信用金庫の皆様が実施した空き家調査の報告を伺う機会を得た。

### (3) 実績・成果と課題

本事業の主な実績として以下の3つを挙げる。

- ・本格的に再開する「あかり展」の準備から参加し、浜通りの賑わいを把握すること。



コロナ禍にあって実施できなかった「あかり展」は、昨年限定された形式で再開され、今年度は従来通りの形式で実施されることとなった。本グループは行灯制作から参加し、地元の皆さんから指導をいただきながら市民の皆さんが描かれた絵を行灯に貼る作業に取り組んだ。そして「あかり展」当日、浜通りに並べられた行灯の点検やイベント参加の呼びかけや会場設営に取り組んだ。この過程で、本格的に再開した「あかり展」に臨む地域の皆さんの取り組む姿勢と「あかり展」への思いを把握するとともに、当日の人出の多さや賑わいを体感した。普段の浜通りでは人の行き交いがあまり見られないが、多くの人々が来場してマルシェなどに向かっていき、行灯が並ぶ中通りをゆっくりと歩く光景を目にし、浜通り地区には活性化の可能性のあることを理解し、共有した。

- ・焼津市内外との若者との交流と意見・情報交換



9月に焼津市内で行われた一般社団法人トリナス様が主催する「わたしの商店街クエスト」の最終報告会と、11月に菊川市で開催された「わかものまちなみサミット2023」に参加した。前者は静岡県内外の大学生が駅前通り商店街を舞台に市が有する様々な資源を利用したスモールビジネスにチャレンジするという企画で、参加した学生が商店街で実際に取り組むビジネスプランの発表会である。報告はユニークなアイデアにあふれていた。漁業のイメージが強い焼津市には様々な可能性があることを把握した。

後者は NPO 法人わかものまちなみが中心となって取り組んでいる若者主体のまちづくりに各地で取り組んでいる団体やそれに関心ある人々が集まって議論する企画であり、今年は菊川市で開催された。当日は「若者参画の生態系をつくる」をテーマとする全体会と、「こども若者と共に歩む行政をつくる」などのテーマを立てた3つの分科会が設けられ、参加者同士で議論・意見交換がなされた。「若者議会」が創設されるなどの取り組みはいくつかの事例があった、4月にこども基本法が制定されてこども家庭庁が創設されるなど、こども・若者主体の取り組みを支える制度・機関ができることで今後本格的にこうした動きが進んでいくこととなっている。浜通り地区では市内他地域よりも早く少子高齢化が進んでいることを念頭に置きながらこの企画に参加し、各地の事例やそれらの意義や課題について把握するとともに、こうしたことを可能にするには若者と地域をつなぐ団体や行政の取組みや財政・制度面からの支援など、いくつかの条件がありうることを把握した。

#### ・「海業振興モデル地区」である沼津市戸田漁港・地域の取り組みの調査

浜通り地区の活性化について、地区内やその周辺で活動する漁業やその関連産業をベースにした取り組みは可能性として大いにあり得る。こうした可能性を検討する上で、水産庁が取り組んでいる「海業」の振興は興味深い。水産庁では、漁業を核とした6次産業化を図ることなどを旨とした総合的な地域振興の取り組みを「海業」と位置づけ、そのモデル地区を設定している。本グループではこれに認定された沼津市の戸田漁港・地域に伺い、活動の内容や経緯についてお話を伺った。

戸田地域では、人口減少を経験しながら特に若年層の流出が起こる事態に直面し、主要地場産業である漁業にも影響が出たという。この状況を打開すべく、地域で連携して水産物の消費を増やすことを目的に漁業と観光の振興に取り組む、漁船が優先される漁港においてプレジャーボートを入れて誘客したこと、それに成功して水産物の消費が拡大するなどの経済効果を得たことを把握した。聞き取りではSNSを活用した取り組みや、浮桟橋を活用したレジャーの取り組みの内容や実施状況について伺い、具体的な内容や成果と課題についてご回答をいただいた。水産物の消費の拡大という明確な目的が設定されていること、レジャー面からの漁港の活用といった取り組みは浜通り地区の活性化を考える上でも興味深い内容であるとともに、こうしたことに取り組んでいくには関係団体間の連携が必要であり、何よりも食事処が複数あることが基礎的な条件であることを把握した。

#### (4) 今後の改善点や対策

改善点・対策としてまず挙げられるのが浜通り地区の水産加工事業者の皆さんへの聞き取り調査であり、その内容と潜在的可能性を把握である。本事業では十分に実施できなかったものの、浜通りには「なまり節」やだしを製造する事業者があり、水産加工を体験する企画に参加する事業者がいるなどの情報を得た。これまでの活動から浜通り地区に食事処がないことが課題の1つであると考えてきたことから、事業者の皆さんと意見交換も行いながら学生・若者目線でこの地区における食の可能性を検討したい。

## 5 地域への提言

「あかり展」への参加を通じて、改めて浜通り地区には活性化の可能性があることを把握した。「あかり展」は年1回の特別なイベントであることから、日常の中で賑わいを形成していくことが大きな課題となる。これに取り組んでいく際には、観光客の誘客を図るというよりも、まずは浜通りの中に住民の皆さんが気軽に立ち寄って交流したり飲食ができる場所が必要だと考える。ゲストハウスである「帆や」と補完的であり、価格帯がさほど高くない食事処ができれば、日常的な賑わいの形成を図るきっかけができるのではないかと考える。こうした取り組みの1つのモデルに松崎町にある「蔵ら」が挙げられる。ここには以前フィールドワークで調査に伺ったことがあり、地元で水揚げされた水産物を使った定食などが抑えられた価格で提供されるとともに、食堂以外の活用として手芸教室などが行われている。浜通りでも地区内にある水産加工事業者が提供する各食材を用いて食事ができるようにしたり、住民の皆さんが気軽に立ち寄れる場が設けられれば、日常的な賑わいのきっかけができるのではないかと考える。

こうした取り組みを行いながら、水産庁が提唱する「海業」を核とした地域づくりの可能性も検討してはどうかと考える。浜通り地区は港が近く、地区内に水産加工業を営まれている事業者の皆さんがいくつかあることから、そうした事業者の皆さんの商品や食品加工の知識を活用するとともに、港の事業者とも必要に応じて連携することで、浜通り地区を含む周辺地域の賑わいの拠点形成が可能ではないかと考える。但し、誘客の重要性は認めつつも、本グループとしてはまずは住民向けの活動拠点の形成を検討してはどうかと考える。

## 6 地域からの評価

焼津市浜通り地区の活性化における新旧魅力の発信等コンテンツの発掘に取り組んでいただいたこと、またあかり展の開催にあたり、事前準備から当日までご協力いただいたことに感謝申し上げます。

浜通り地区は、本市の特色である水産業発祥の地として多くの店舗、加工場などで賑わいをを見せていたが、現在では少子高齢化による人口減少や都市化による事業者の郊外移転などにより風情ある街並みが消えつつあり、以前の活気が失われている。

一方で、本年度のあかり展はコロナ禍以前の規模で開催ができ、例年以上に多くの方にお越しいただいた中で、大きな賑わいをを見せていた。

このあかり展での賑わいを一過性に留めることなく、持続的な賑わいを創出するため、本市の魅力である「食」分野を中心に潜在的なコンテンツの把握や他市の事例等を調査し、提言に結び付けていただいたことは、本市においても有益で浜通りの活性化に資するものである。

今後も引き続き連携を図りながら、浜通りの活性化を目指していきたい。

(焼津市経済部商工観光課 望月)